

「伝えようふるさと余田の伝統芸能」

柳井市立余田小学校

校長 廣池 康子

1 はじめに

本校は柳井市西部に位置し、令和3年度全校児童は68名の小規模校である。

「余田小：学校・地域連携カリキュラム」では、児童のコミュニケーション力を育てるとともに、ふるさと余田のよさを知り、ふるさにと誇りがもてる児童の育成を、目標に掲げている。

中でも毎年4年生は、地域の方のご指導のもと、地域の伝統芸能「獅子舞と横笛、竹太鼓」を練習し、行事などで地域住民や保護者に披露し、地域の活性化を、ともに目指している。

2 伝統芸能学習の概要

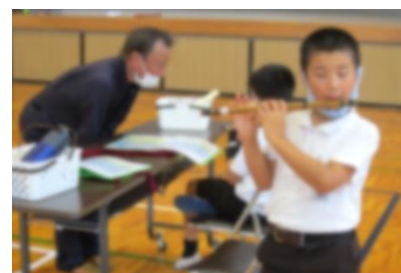
6月から7月「地域の伝統芸能を受け継ごう」

総合的な学習の時間を使って、4年生が地域の伝統芸能を継承してきた経緯を調べたり、関わってた人たちに話を聞いたりした。毎年先輩たちの演奏を見てきたためか、学習に対して前向きな児童の姿が見られた。7月中旬に初めて横笛を吹いた際には、なかなか音が出ず、苦勞している児童が多かったが、地域の方や上級生のお手本を見て、「自分もあんなに吹きたい」という思いをもち、ほとんどの児童が、休み時間に練習に取り組んでいた。



7月から8月「伝統芸能でオリジナル曲を作ろう」

3年生から6年生を対象に、余田の伝統芸能についてアンケートをとり、書かれた言葉をまとめて歌詞にした。さらに夏休み中に、校長が児童の歌詞に曲を付けて、合唱曲にした。伝統芸能の笛の音をイントロにして、獅子舞や横笛の音色を取り入れた曲ができ上がった。



9月から10月 柳井市小中音楽会

4年生から6年生は、オリジナル曲「ふるさと余田のタンゴ」の合唱練習と、獅子舞や横笛の練習に励んだ。10月28日には、柳井市小中音楽会で、オリジナル曲を獅子舞とともに披露し、自分たちの地域の伝統に自信を感じることができた。



1 1月 余田っ子発表会

4年生は半年間の練習の集大成として、地域住民・保護者に横笛・獅子舞・竹太鼓の演奏を披露した。また、4年生から6年生で、オリジナル曲「ふるさと余田のタンゴ」の合唱も披露した。伝統芸能の学習でお世話になった地域の方への感謝状を贈呈し、喜んでいただけた。



2月 二分の一成人式

2月17日の「二分の一成人式」では、指導していただいた地域の方を招待し、最後の演奏を披露した。保護者からも、成長した児童たちへの称賛の声が寄せられた。



この他にも、いくつかの地域の行事に参加し、笛や獅子舞を披露する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったものが多かった。児童からは残念に思う声とともに、少ない機会に向けて全力で練習したいという声が上がった。自分の横笛を購入し、引き続き練習する意欲を見せていた。



3 成果と課題

横笛や獅子舞、竹太鼓の習得に向けて、地域の方々に指導していただき披露できた達成感は、児童にとって貴重な体験だった。伝統芸能にふれた経験もだが、地域の方に、継続的に丁寧に教えてもらい、感謝の気持ちや思いやりの心を育てることができた。

また伝統芸能への思いを乗せたオリジナル曲を作り、みんなで歌ったことで、ふるさとに対してより強い愛着を感じたのではないかと思う。

一方、児童の体験活動を支えてくださる地域の方々が、ご自身の仕事を抜けて来校され、多くの時間を割いていただくことに、申し訳ない気持ちもある。どの方も、児童が伝統芸能に関わることを大変嬉しいとおっしゃり、今後も続けたい意思を伝えてくださったが、負担になっていないか心配である。

さらに、年々少子化が進み、児童の数が減少してきていることも気がかりである。今年度は11人で演奏をすることができたが、来年度は4年生の児童数が4人となり、現在の演奏の形態を変更していくことも考えなければならない。

4 終わりに

この活動が、児童一人ひとりにとって大変有意義であり、児童が将来ふるさとについて考えたときに、思い出す出来事の一つになってくれることを心より願っている。伝統芸能発表会の準備などでは、地域活性化活動助成金を使わせていただいた。衷心より、感謝申し上げる次第である。